

XBRL情報の投資情報としての高度化

一次世代EDINETにおけるInlineXBRLとディメンション技術の概要—

坂 上 学

目 次

- | | |
|----------------------|---------------|
| 1. 次世代EDINETの稼働 | 3. ディメンションの概要 |
| 2. InlineXBRLの仕組みと意義 | 4. 終わりに |

本稿では、次世代EDINETにおいて採用された新技術であるInlineXBRLとディメンション技術について解説を行っている。InlineXBRLの技術はデータの利用可能性と閲覧性を同時に達成した画期的な技術であり、今後のXBRLデータを活用するためには必須の知識となるだろう。またディメンションのデータ構造を知ることによってアナリストは財務データを更に活用することができる。これらの知識は、比較優位を獲得するための大きな武器となるだろう。

1. 次世代EDINETの稼働

EDINETとは、「Electronic Disclosure for Investors' NETwork」の略で、金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システムのことである。EDINETシステムが稼働し始めた当初は、財務諸表本体も含め全てがWebページの作成に用いられるHTML (Hyper Text Markup Language) によって記述されていたが、2008年4月1日より開始する事業年度の財務諸表についてはXBRL (eXtensible Business Reporting Language) という財務報告

用の言語が導入された。更に、次世代EDINETシステムは13年9月17日より稼働を始めたが、『有価証券報告書』の全体にわたりXBRLによって記述されるようになったのである(金融庁[2013])。

13年12月31日以後に終了する事業年度から、この次世代EDINETを通じて提出が始まったが、『有価証券報告書』など以前から一部XBRLが導入されていた書類に加え、新たに『公開買付届出書』や『大量保有報告書』についてもXBRLが導入されることになった。

次世代EDINETについては、『有価証券報告書』の全体がXBRL化の対象となり、「企業の概況」



坂上 学 (さかうえ まなぶ)

法政大学経営学部教授。1994年早稲田大学大学院商学研究科中退。同年4月、大阪市立大学商学部助手として赴任。同講師、同助教授、同大学大学院経営学研究科准教授を経て、2009年4月より現職。日本会計研究学会評議員、日本ディスクロージャー研究学会副会長、日本経営分析学会常任理事、証券アナリスト試験委員(12年～)。主な著書に『新版 会計人のためのXBRL入門』(同文館出版、07年)などがある。